二〇〇九年十一月

平城宮発掘調査出土木簡概報(三十九)

付　平城宮発掘調査出土木簡概報(三)訂正

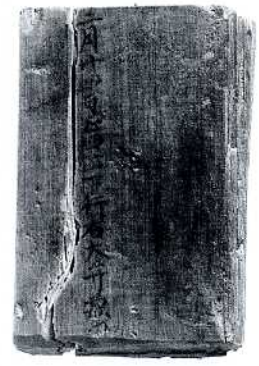
奈良文化財研究所

図版一

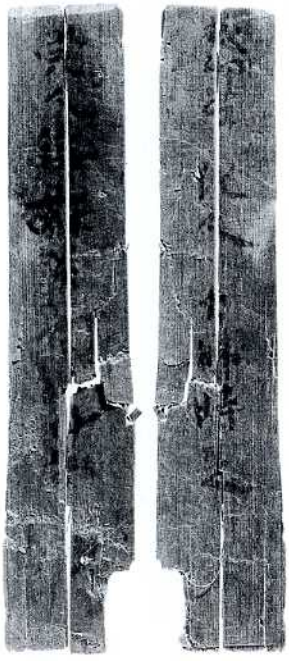
6

8

1



2



127

87

（1：2）

図版二

33

3

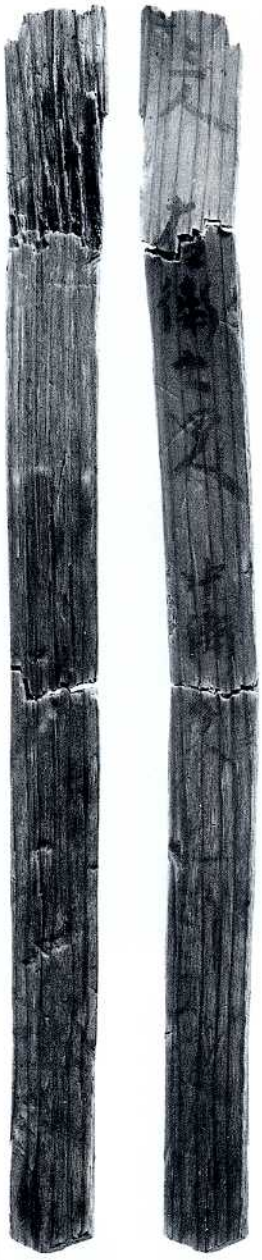
17

5

（1：2，5のみ1：3）

図版三

16

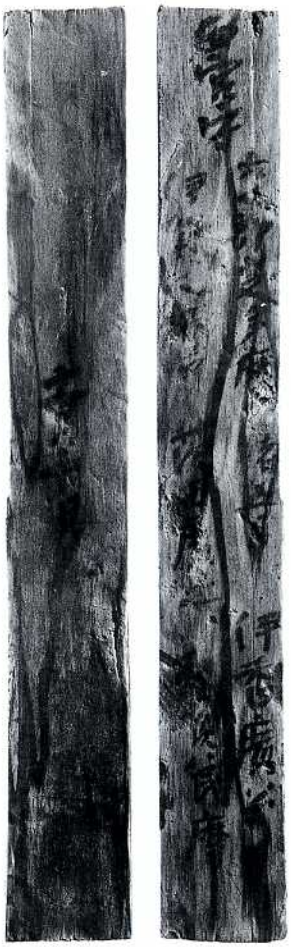


24

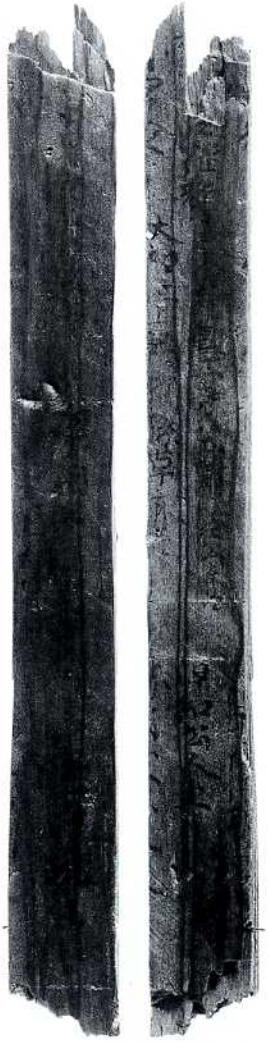
11

（1：2，16のみ2：5）

15



13



31

37

88

49

58

20

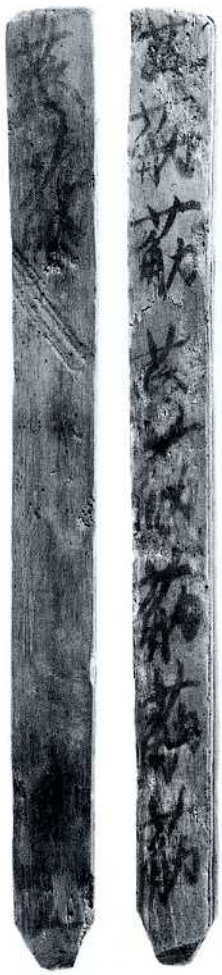
70

71

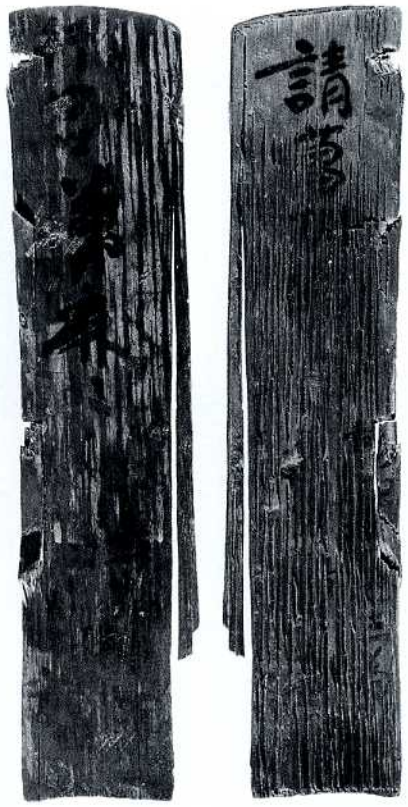
25

（1：2）

図版五



103



7

9

72

68

84

22

12

（1：2）

図版六

82

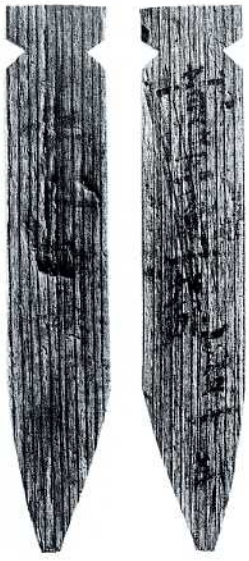
76

69

75

74

79



78

80

83

81

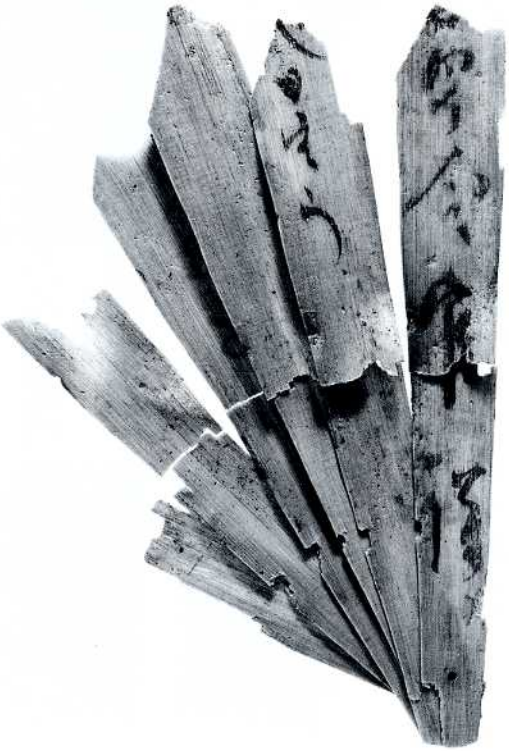
（2：3）

図版七

98

99

100a



97

（9：20，98・99のみ1：3）

4

102

86

106

96

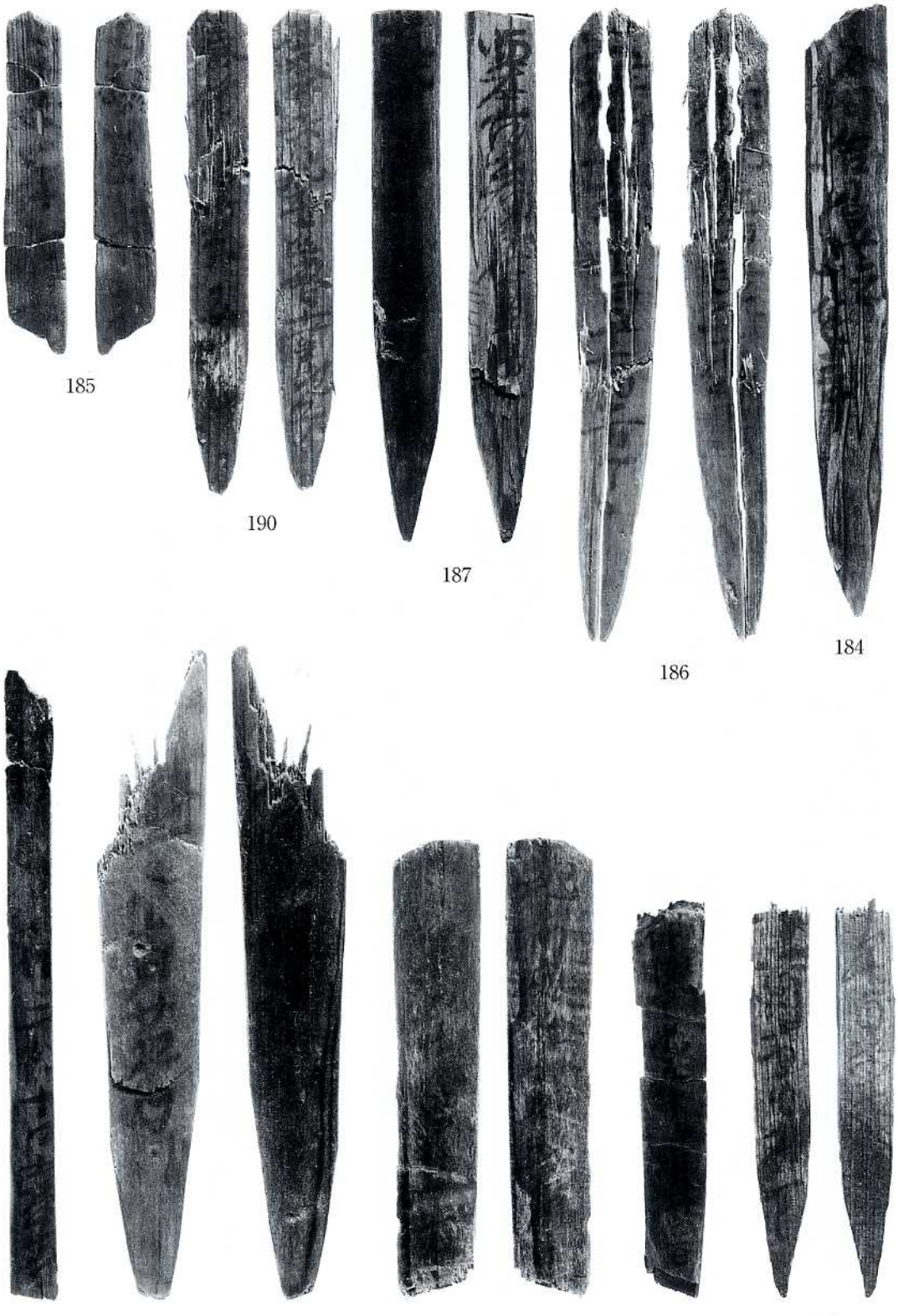
85

73

（1：2）

図版九

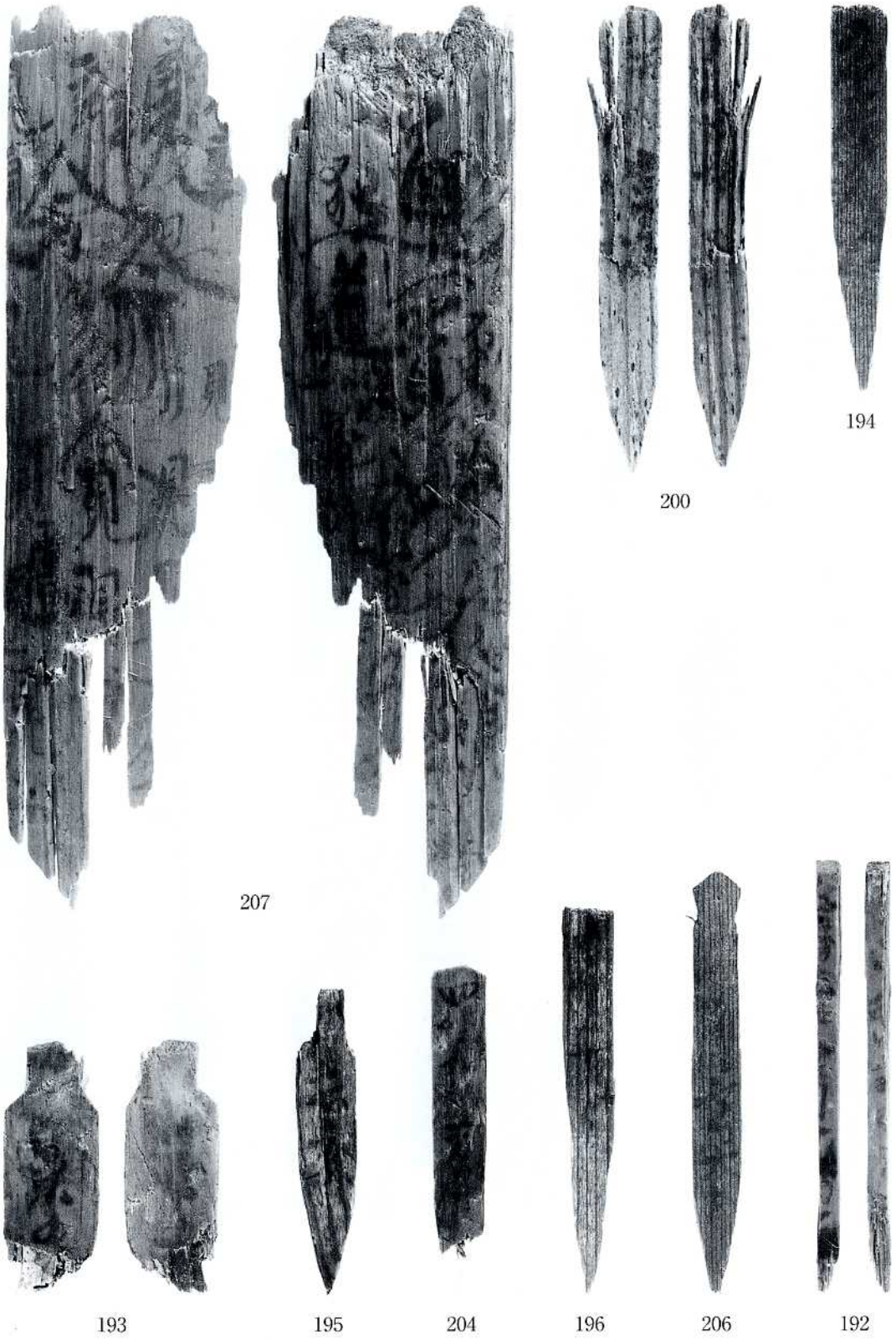
（1：2）



185 190 187 186 184

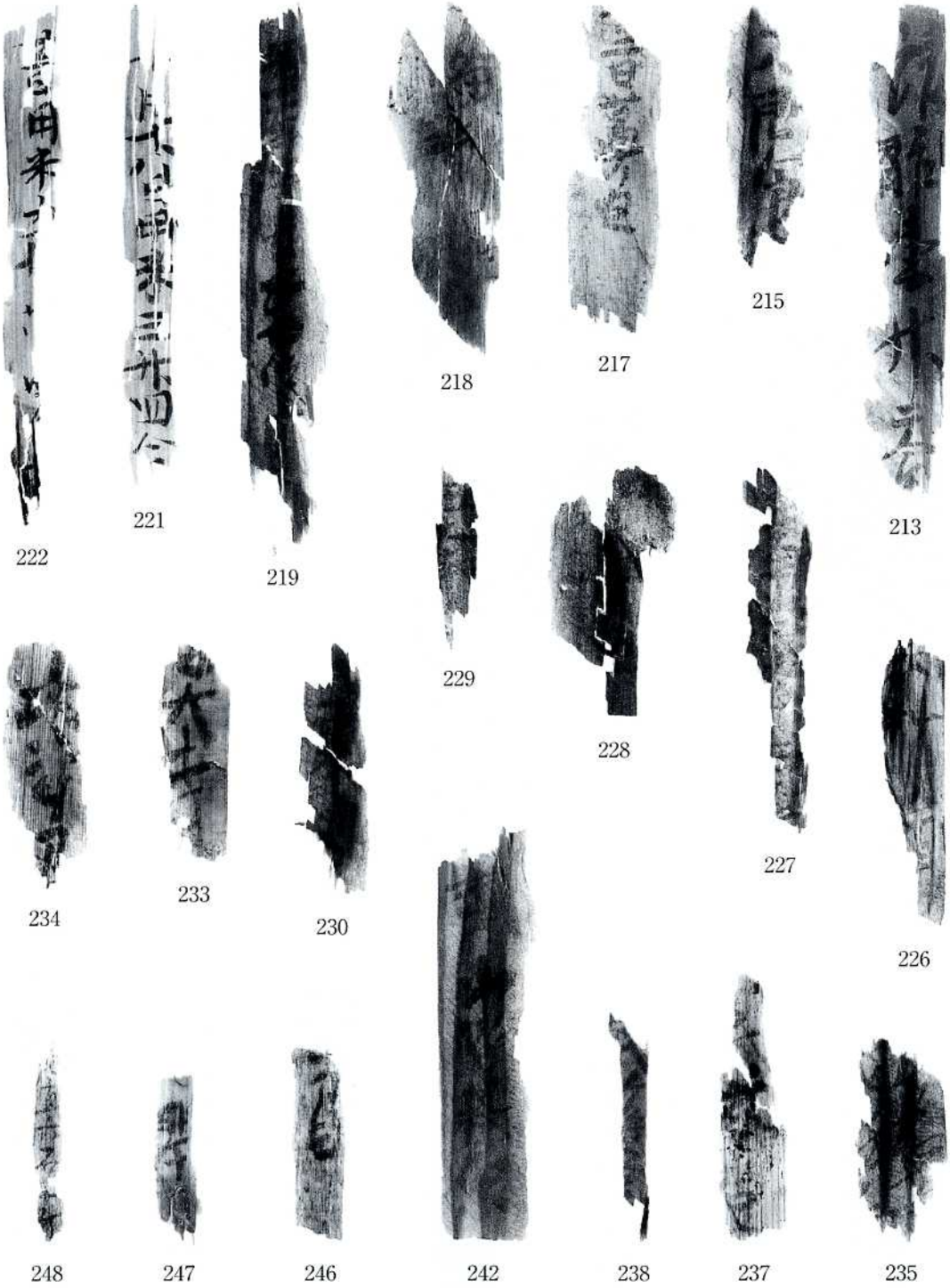
175 191 182 183 189

（2：3）



（2：3）

図版一二

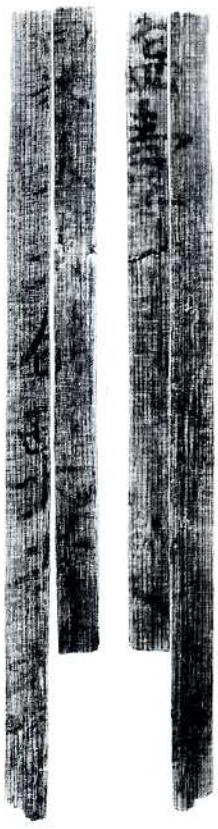

222
221
219
218
217
215
213
229
228
227
226
234
233
230
248
247
246
242
238
237
235

(7：10)

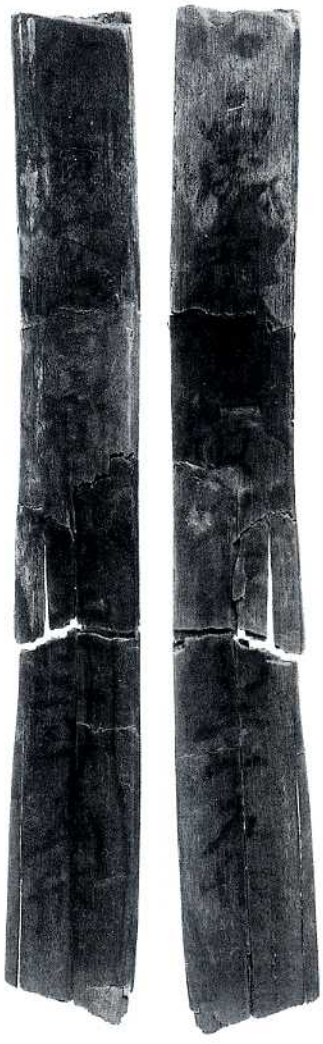
図版一三

266
261
262
253
251
258
249
257
252
272
270
279
289
288
274
319
276
275
281
271
287

(7：10)



54



71

51＋66

36

38

この概報には、先に公刊した『平城宮発掘調査出土木簡概報（三十八）』（二〇〇七年十一月刊）以後に平城宮跡から出土した木簡のうち主要なもの、及び同書に一部を報告した「西大寺食堂院木簡」の続報を収録する。

一、木簡の出土地点と状況

第四二九・四四〇次調査（6AAF区）

（二〇〇八年一月～四月、二〇〇八年一二月～二〇〇九年二月）

平城宮第二次大極殿院・東区朝堂院・朝集殿院の東側には、南北に大きく四区画の官衙ブロックが連なり、東方官衙と呼んでいる。この各官衙ブロックについて、六m幅のトレンチを東西方向と南北方向に設け、遺跡の概要を把握するための発掘調査を北から順に進めており、第四二九次調査はその第二年次にあたる。調査面積は、計一三一四㎡である。

東方官衙のトレンチ調査の最重要課題は、内裏の東を南流する基幹排水路ＳＤ二七〇〇の行方である。真南にあたる地点には朝堂院南方官衙が位置するから、ＳＤ二七〇〇はここまでは達せず、四ブロックのいずれかの境で東に折れ、東方官衙と東院の間の宮内道路の西側溝にあたる南北溝ＳＤ三四一〇に合流していたとみられる。

調査の結果、ＳＤ二七〇〇は、北から二つめの官衙ブロックにおいてもまっすぐ南流していることが明らかになった。埋土は砂礫でかなりの水量があった状況を示す。内裏東側でみられたような堅固な石積み護岸はなく、簡素な杭による護岸が残るだけである。今回南北トレンチ南端で東西方向の直線的な溝を検出したが、埋土は粘土と木屑の層を主体とし、ＳＤ二七〇〇とは全く様相を異にしている。このため、ＳＤ二七〇〇がここで東折したのか、それとも朝堂院東門から東に延びる宮内道路を越えて三つ目の官衙ブロックに達していたのかの最終的判断は、次回の調査成果を俟つ必要がある。

ＳＤ二七〇〇の東西で官衙の様相は大きく異なる。西側では官衙の東西幅いっぱいに展開する二棟の倉庫とみられる礎石建ち総柱建物を検出した。配置からみて大規模な倉庫群を構成していたとみられ、民部省廩院の可能性が考えられる。

一方東側では、密度の高い掘立柱建物群を検出したが、トレンチ調査であるため、全体的な配置や遺構変遷を確定するには至っていない。その中で、調査区南部の官衙ブロック南辺に近い部分で、大規模な廃棄土坑ＳＫ一九一八九の東端部分を検出し、多量の削屑を含む木屑層の存在を確認したため、遺構の全容を把握した上で、遺物の取り上げを図るべく実施したのが第四四〇次調査である。調査面積は、一部第四二九次調査と重複させた計二五五㎡である。

木簡は、南北溝ＳＤ二七〇〇（第四二九次調査）から七七点（うち削屑五九点）、土坑ＳＫ一九一八九から約二〇〇点の他、南北トレンチ南端の東西溝ＳＤ一九一九三やその北の土坑からも出土したが、整理中のため、次号以降に報告することとする。

南北溝SD二七〇〇　南北方向の基幹排水路で、三時期の変遷を確認した。一番古い時期の溝Ⅰは、両岸を径一〇cm前後の木杭で護岸する。溝幅は木杭の心々で約二・八m、深さは現状で五〇cm以上ある。堆積は下半が少量の木質遺物を含む砂層、上部が大きな瓦の破片を多数含むシルトで、木簡は砂層から出土した。その後溝幅を三・五m以上に広げ褐色の砂礫の堆積を主体とする溝Ⅱ、さらに東側へ拡張し礫を主体とする溝幅最大三・八mの溝Ⅲを設けている。いずれからも多量の土器と瓦が出土した。

土坑SK一九一八九　東西約一一m南北約七mの規模の土坑で、深さは約一m、壁は比較的直に立ち上がる。東方向へ二回の拡張を経て前述の規模になったとみられる。レンズ状に堆積する木屑層は分厚いところでは厚さ五〇cmにも達する。土坑上部の輪郭部分には炭層が廻っており、これは木屑層が次第に炭層に遷移し、土坑の壁面に沿って立ち上がる様相を呈する。このことから、この土坑は単なる廃棄土坑ではなく、平城宮では初めての焼却土坑の可能性が高い。周辺は一時期ゴミ処理場として機能していたとみられ、SK一九一八九の西にも同様の焼却土坑がさらにいくつか点在する（但し、いずれも調査区内では完結しないため、掘り下げは行わず、遺物の取り上げは将来の全面調査に委ねることとした）。

SK一九一八九の木屑層からは木簡をはじめ、檜扇、杓子、サイコロなどのさまざまな木製品、平城宮Ⅳを中心とする時期の土器、瓦、種子など、多種多様の遺物が出土した。また、削屑も多量に含まれているため、埋土は全て土ごと持ち帰り、整理室で遺物の洗い出しを進めている。埋土は遺物整理用コンテナで約二八〇〇箱にも及び、洗浄だけで数年を要するとみられるが、最終的には数万点を超え、これまでに平城宮跡で検出された木簡群を遙かに上回る規模の木簡群になるとみられる。洗浄で出土した木簡については、今後順次報告していく予定である。

なお、SK一九一八九やそれと一連の土坑に壊される形で、平城

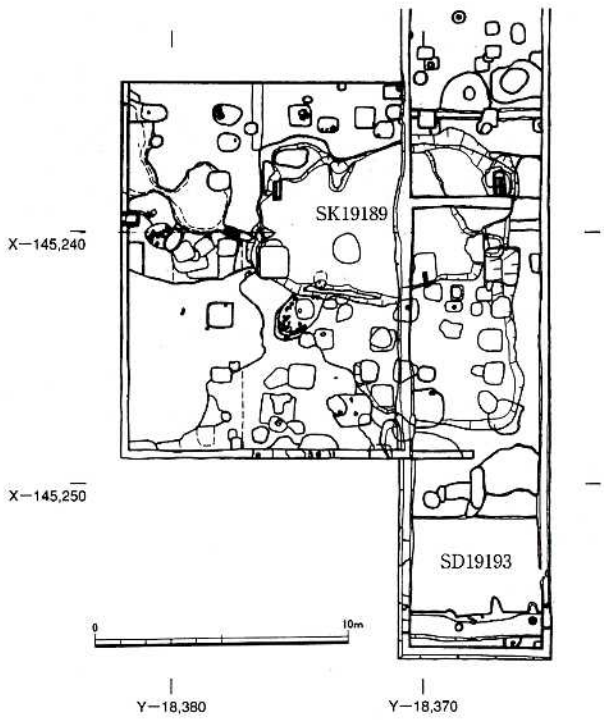


図1　第440次調査遺構平面図

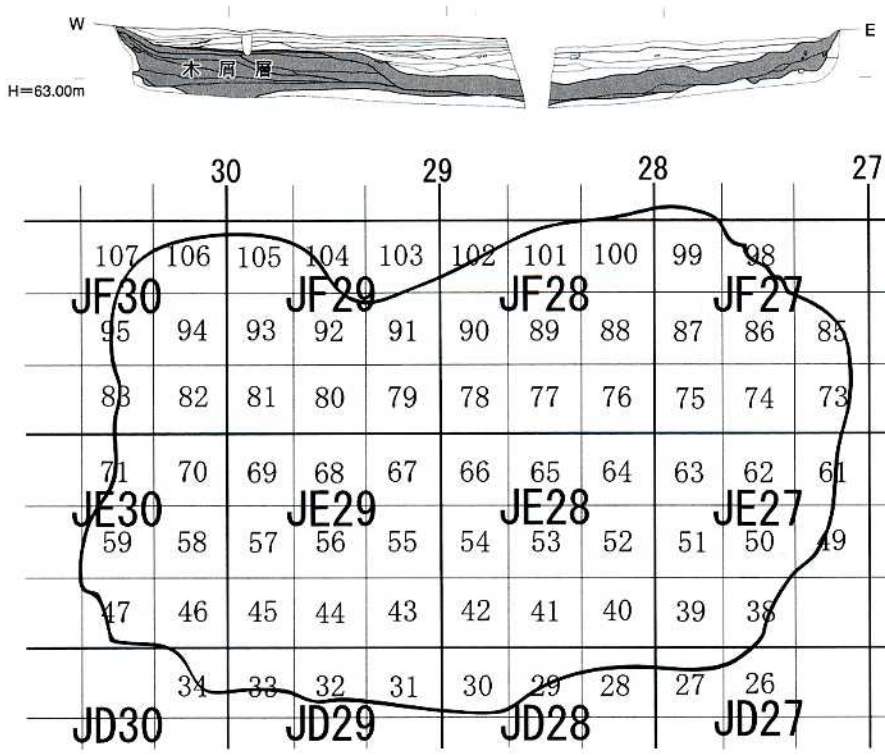


図２　土坑SK19189断面図（JFライン東西畦 北面反転）（上）と地区割図（下）

宮では初めてとなるトイレの可能性のある遺構を検出した。埋土の分析から人糞に由来する事が判明し、また瓜の種子や籌木も多数出土したが、糞溜めの可能性もあり、トイレとは断定できない。籌木には若干墨書の残るものがあり、木簡を二次利用したものと思われるが、文字として釈読できるものはなかった。その他の遺構の詳細については、『奈良文化財研究所紀要二〇〇九』を参照されたい。

第四〇四・四一〇・四一五次調査
（６ＢＳＤ区）

（二〇〇六年五月～一〇月）

平城京跡右京一条三坊八坪（西大寺旧境内食堂院推定地）において実施した、マンション建設に伴う発掘調査である。木簡は井戸ＳＥ九五〇から出土した。持ち帰ったコンテナ約一二〇〇箱分の埋土の洗浄を進めた結果、木簡の全貌が明らかになったので、前号刊行以降に明らかになった主な木簡を紹介する。遺構などの詳細については、前号を参照されたい。

表１　西大寺食堂院木簡点数表

層位	IC70		IB70		IZ70		小計		計
	木簡	削屑	木簡	削屑	木簡	削屑	木簡	削屑	
井戸枠	1	0	0	0	0	0	1	0	1
井戸枠内a	1	0	0	0	0	0	1	0	1
井戸枠内b	2	23	1	1	0	0	3	24	27
井戸枠内c	13	121	5	24	0	0	18	145	163
井戸枠内c木屑層	19	55	1	6	0	0	20	61	81
井戸枠内d	58	215	34	90	1	0	93	305	398
井戸枠内d木屑層	243	982	121	345	0	0	364	1327	1691
井戸枠内e	26	137	17	98	0	0	43	235	278
井戸枠内z	12	11	4	2	3	2	19	15	34
攪乱	9	3	2	1	0	0	11	4	15
小計	384	1547	185	567	4	2	573	2116	—
計	1931		752		6		—		2689

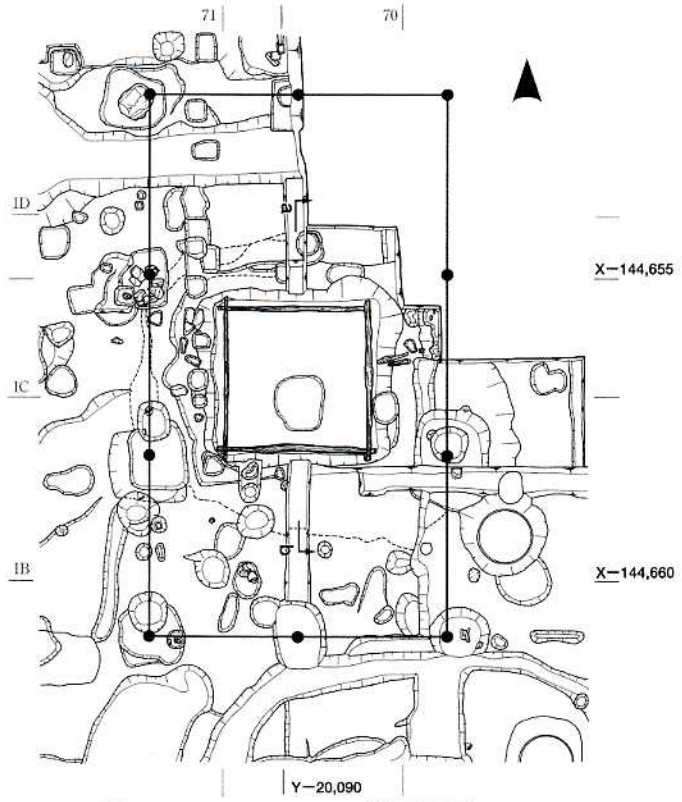


図 3　SE950・SB951遺構平面図　1:120

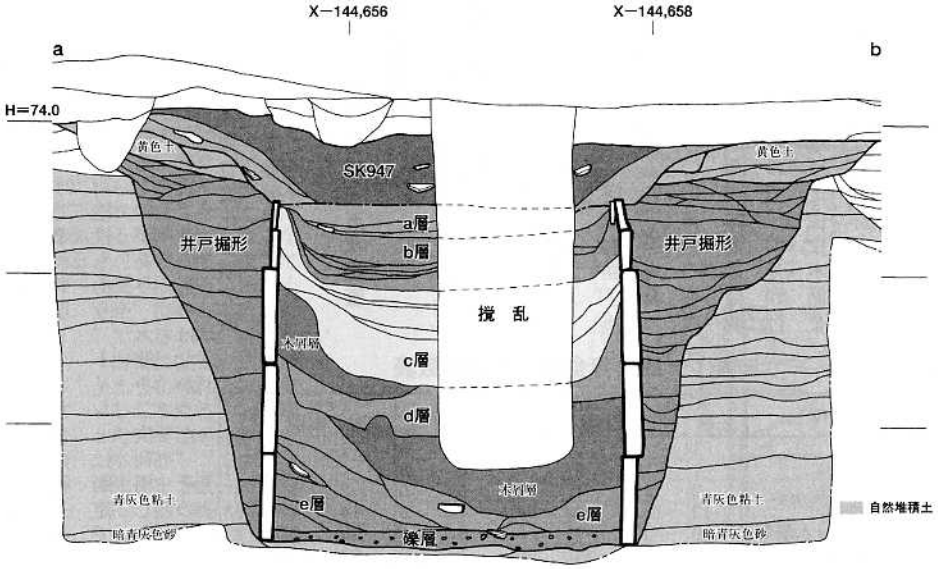


図 4　SE950断面図　1:50

二、凡　例

(一)木簡は、内容により、文書、付札、その他の順に排列するのを原則とし、便宜的に通し番号を付した。

(二)釈文の漢字は、概ね現行常用字体に改めたが、「龍」「廣」「實」「證」「鳴」などについては右の字体を使用した。

(三)釈文に加えた符号は次の通りである。

・　木簡の表裏に文字がある場合、その区別を示す。

○　木簡の上端もしくは下端に、孔が穿たれていることを示す。

……　同一木簡と推定されるが直接接続せず、中間の一字以上が不明なことを示す。

――　木目と直交する方向の刻線が施されていることを示す。

□□□　欠損文字のうち字数の確認できるもの。

┌　┐　欠損文字のうち字数が数えられないもの。

└　┘　記載内容から、上または下に一字以上の文字を推定できるもの。但し、削屑については煩雑になるので、この記号は省略した。

■　抹消により判読が困難なもの。

≈　≈　抹消部分の字画が明らかな場合に限り、原字の左傍に付した。

〔×〕　文字の上に重書して原字を訂正している場合、訂正箇所の左傍に・を付し、原字を上の要領で右傍に示す。

「　」　異筆、追筆。

「　合点。

〔　〕　校訂に関する註のうち、本文に置き換わるべき文字を含むもの。

（　）　右以外の校訂註、及び説明註。

カ　編者が加えた註で、疑問が残るもの。

マヽ　文字に疑問はないが、意味が通じ難いもの。

(四)釈文下の上段のアラビア数字は、木簡の長さ・幅・厚さを示す(単位は㎜)。欠損・二次的整形の場合、現存部分の法量を括弧付きで示した。なお、長さ・幅は木簡の文字の方向による。削屑については、法量の表記を省略した。

(五)釈文下の中段に、現在の遺存の形態を示す型式番号を記した。型式番号は次の通りで、四桁の数字を用いているが、本概報では時代を示す千の位を省き、下三桁で表した。なお、幅とは、木簡を木目方向に置いた時の上下両端をいう。

6011型式　長方形の材のもの。

6015型式　長方形の材の側面に孔を穿ったもの。

6019型式　一端が方頭で、他端は折損・腐蝕などによって、原形の失われたもの。原形は6011・6015・6032・6041・6051型式のいずれかと推定される。

6021型式　小型矩形のもの。
6022型式　小型矩形の材の一端を圭頭にしたもの。
6031型式　長方形の材の両端の左右に切り込みを入れたもの。方頭・圭頭など種々の作り方がある。
6032型式　長方形の材の一端に左右に切り込みを入れたもの。
6033型式　長方形の材の一端の左右に切り込みを入れ、他端を尖らせたもの。
6039型式　長方形の材の一端の左右に切り込みがあるが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は6031・6032・6033・6043型式のいずれかと推定される。
6041型式　長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状に作ったもの。
6043型式　長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状にし、左右に切り込みをもつもの。
6049型式　長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状にしているが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は6041・6043型式のいずれかと推定される。
6051型式　長方形の材の一端を尖らせたもの。
6059型式　長方形の材の一端を尖らせているが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は6033・6051型式のいずれかと推定される。
6061型式　用途の明瞭な木製品に墨書のあるもの。（　）内に製品名を註記した。
6065型式　用途未詳の木製品に墨書のあるもの。
6081型式　折損・割截・腐蝕その他によって、原形の判明しないもの。
6091型式　削屑。

括弧内の番号は、二次的整形の場合に推定できる原形の型式番号を表す。

（六）釈文下の下段に出土地点を示す小地区名（アルファベット・数字）を記した。Zは地区不明を示す。複数の地区から出土した断片が接続した場合は、地区名を＋で併記した。なお、第四四〇次調査では、土坑ＳＫ一九一八九の遺物の取り上げを特に一ｍのグリッドを設定して行ったため、小地区名の次に「―」で一ｍグリッド名の数字を併記した（図2参照）。

（七）釈文の出土地点の下に付した「*」印は、口絵写真に写真を掲げた木簡を示す。例えば、「*2」は「図版二」に対応する。

本書の作成は、都城発掘調査部史料研究室が行った。木簡の釈読には、渡辺晃宏・馬場基・山本崇・浅野啓介・桑田訓也があたり、古藤真平・井上幸がこれを補助した。編集に際しては、梅本有貴江・小池綾子・杉本敬子・寺尾淳子・松本大輔・南島真理子各氏の協力を得た。写真は企画調整部写真室の中村一郎の撮影による。本書の編集は渡辺晃宏が担当した。

第四二九・四四〇次調査（6AAF区）
土坑SK一九一八九

（1・2ハ、木簡ヲ二次的ニ分割・整形シタモノデ、略同大ノ断片ヲ挟ンデ、コノ順ニ連続スルト考エラレル。）

1
・　秦福貴麻呂
　私舩守
　小長谷麻呂
・□具録如件謹以申聞謹□
(96)・(58)・9　011　JE27—63　*1

2
・　□□
　宮部名足
　伊部諸国
　正八位下礒部石足
　□　□
・□二月廿四日正四位下行右大弁兼内□
(91)・(63)・6　011　JE28—64　*1

3
左衛士府宿奏　合九十三人　少尉正六位上安□
　大志正六位上□
(355)・(31)・6　081　JE29—43　*2

4
・謹解　申請出挙銭事□〔合カ〕□□
・路　相知路並倉路並倉□
(243)・(23)・3　081　JF28—77　*8

5
・　右兵衛少尉路豊長我甚□　当番兵衛等乎者銭三百文取沽遣弖
・□申　□請録給事者内召給可申故波身死去在乎米
〔解カ〕退　番　兵　衛　□　留　辛　苦　□　…

・□□後故人□不得　又一路豊長波道　…　□従在之替者藤原家子物知□給止申
(23+227+382)・33・5　059　JF28—76＋JF28　*2

6

・内厩寮移　中務省　□□

・□　　□

(213)・(13)・3　081　JF28—88　*1

7

・請芻捌圍　城部□毛三為
道嶋□□毛□
□□□毛□□□

(214)・45・3　019　JE30　*5

・行田口「弟麻呂」　八年十一月十二日石山御嶋

8

・十四日不直若宮老子　日夕

・寶龜二年四月十四日　番長山代真勝
久米枚夫

202・40・2　011　JE28—54　*1

9

・廿日不　秦人成　高□□
茨田廣足

・太道道月是是是是是

(160)・(18)・4　019　JE28—54　*5

10

□□□□日夕　□□□□　(130)・(7)・2　081　JE27—51

11

・内運物　折薦畳十枚　紺畳五枚　幄一具
簀九枚　黄二畳枚　赤短二枚
(マヽ)

・□供物　短畳一枚

301・(25)・3　033　JF28—78　*3

12

・燈十三具　燈台五枚　副油瓶一口
□一合油受小碪三口四束布者　豊川
所充

・十三具　三合二口　二合五口□五夕四口
□月□日日置内麻呂　一合一口炬残五合
□□一升

(220)・37・6　019　JE28—66　*5

13

・西宮守　六人部斐多麻呂　楮五月　伊香廣公
伊賀人麻呂　茨田廣足　叡負□摩

・　十一月十日

248・33・4　011　JE27—63　*4

14

・西宮　山辺奥人　猪□人麻呂　丈部浄人
丈部赤麻呂　田部豊成　酒部三方

・粟田人主　十一月□

202・22・4　011　JF28—76＋JF28—89

15

・東宮守〔　　〕〔　　〕
丈部人根　若麻続犬甘「右
高」

・若湯坐五百国「太夫夫〔　〕」
「若重〔　　〕〔国右右右右右右右高
〔　　〕」

211・(20)・5　011　JE28—64　*4

16

神浄成　神浄成　〔　〕浄人「亀〔　〕」秦弥竹　「亀」金刺池主
・鈴守　戌　「亀」亥「亀亀廣」　子「秦弥武」丑「弥武武武」寅「寶　o
「上〔　〕」大伴総道「亀」他田廣万呂「他〔　〕〔　〕」　大伴廣〔　　亀」

金刺池主　〔　〕〔　〕神浄　〔　〕池　大〔　〕〔　〕国　池田　〔　〕麻呂　「〔　〕」
・謹啓　亥「〔　〕」　子　丑「〔　〕道」「池　大伴子〔　〕　寅〔　〕　o
鈴守　物部廣　「鈴守」金刺池主　錦部家〔　　池」神浄〔　〕　「〔　〕」

506・(54)・6　081　JF28—76＋JF27　*3

17

東門
府生従七位上勲十一〔　〕〔等ヵ〕
南東門

(385)・(45)・8　081　JE29—67　*2

18

〔大ヵ〕
〔　〕尉外正五位下

(97)・18・2　081　JE29—55

19

少尉正六〔　　〕

(97)・(9)・2　081　JE28—40

20

・　少志伊勢〔　　〕
・〔　〕十九枚〔　　〕

(100)・(17)・6　081　JF28—89　*4

21
・
〔近衛少カ〕
□□□□外従五位□　□
・□□□□□　丸部□咋麻呂
(213)・(8)・5　081　JF29—81

22
・□□□□
□□殿「□□」四人紀将監曹司「□
・□年二月十四日近衛金刺老
(168)・(20)・4　081　JF28　*5

23
将監□
(104)・(40)・8　081　JE29—44

24
・□三人　右衛士四人　中衛四人　近衛三人□□□
・□　□
(326)・(28)・5　081　JE28—40　*3

25
中衛大石嶋
(72)・(21)・2　081　JE27—51　*4

26
・府生□□首
□　□
・□□□□□□□□
□佐首不　秦□□〔廣津カ〕
(255)・(28)・3　081　JE28—66

27
主□　□　□
衛士□二人〔廿カ〕
(253)・(20)・5　081　JE29—55

28
□　酒司別当
(188)・18・4　019　JE28—54

29
・□□□□〔五〕位下□□□□〔葛井連根主カ〕
・　□　□
(147)・(5)・3　081　JE29—67

30
従七位
(72)・(14)・2　081　JE29—67

31

・□□　〔山代忌ヵ〕□□□□□　□　大初位下阿倍朝臣東□

□　□臣継麻呂　従八位下勲十一等笠難波臣公麻呂　伊和公人上

□□□　大初位上軽我孫草麻呂　勝部□　□

・□　□　□　□

□田口朝臣家継　梁田王　己西部王

□□□　□　已上五世　□□

(270)・(28)・5　081　JF28—90　*4

32

□里人　大伴牛主　安曇伊世万呂　已上四人大□□□

長谷部□万呂　矢田部山守

安曇秋長　大伴乙万呂

(327)・(50)・5　081　JE29—67

33

・四人官人　一人府生　〔府生ヵ〕□□従七位上高屋真□　神沙弥

・　〔多ヵ〕□紀伊加麻呂　□

(328)・(20)・7　081　JE29—69　*2

34

・□　□朝臣□□□　〔麻呂ヵ〕正八位下車持川□

□位上高麗朝臣鈴麻呂　従八位上□□

・麻績門万呂　□□□　物部□□

□□　長谷部浄成　長谷□□

(178)・(20)・5　081　JE28—54

35

……大……初位上台忌寸廣額……　……秦忌寸月

□　□

(189)・(25)・5　081　JE30—70

36

□　无位糸井連人足

(266)・(10)・6　081　JF29—81

37

・　□　〔山ヵ〕□　□

子十二月　丈部益□　□　□

・□□□　〔阿刀ヵ〕□□□□　□　□

(290)・(16)・3　081　JE29—44　*4

38 ・五百依　宅部孫足
□真□　若湯坐人□

・□　□　廣　□　□
並　□犬　篠　□□〔給カ〕　□□□
〔麻カ〕□　□甘　□　□　□□□□
(124)・(39)・4　081　JF27—87

39 ・「□」宇治息嶋　若麻続犬甘　「□」
□□廣浜「□」「道」□　□□□〔公カ〕

・□召召□　□
(192)・(24)・2　019　JF28—78

40 ・村主此老　中臣□□

・能登子若　国真国　□
(235)・(15)・3　081　JF27—87

41 秦廣茂　丈□〔部カ〕
多米国人　高安乙人　(155)・41・2　081　JE28—66

42 □安倍　高橋　(176)・(29)・3　081　JD28—30

43 赤染鞦韆　(85)・20・1　019　JE29—55

44 穴師宿奈麻呂　大宅　(170)・(21)・3　081　JE29—67

45 ・宇治部養万呂

・□□
畳栗栖　(129)・24・5　019　JE29—68

46 大伴秋田　大□　(124)・(21)・2　081　JE27—63

47 川匂廣公　辟秦　(118)・(21)・5　081　JE29—44

48 ・□　□辟田　膳福人　辟田福人　膳稲□

・□　□　□　出挙□□□□□□
167・12・3　051　JE28—54

49 下毛野老　秦男川
160・(18)・5　081　JE29—56　*4

50 玉手牛養　右三人
(227)・(30)・7　081　JE28—64

51 丹波三万良□
□　□
(213)・(48)・8　011　JF28—77

52 □部□
長浄足
(114)・57・2　081　JE28—40

53 額田部宿祢真□
(79)・27・1　019　JE28—42

54 □〔綱カ〕
□　穂積
(71)・(13)・3　081　JE29—44

55 ・水取継成　□□
・瓜蔵垣豊
(144)・(28)・8　011　JE29—57

56 □□□人　□
物部常□
182・28・2　011　JF28—66

57 矢田部常人
(102)・(16)・4　081　JE29—68

58 近江国□〔州カ〕（マヽ）野郡人車持子公今□
(122)・22・8　019　JF28—76　*4

59 ・□道主
・□□□
(100)・(21)・4　081　JF27—75

60 ・家万呂
枚万呂
・□益□
(56)・(56)・9　011　JE28—66

61 □姓名□〔勿カ〕□无
355・33・2　011　JD28—30
（表裏トモ天地逆ノモノモ含メ削リ残リノ墨痕多数アリ。）

62

［　］
刀万呂
人五月□
□□

123・100・11　065　JF28—77

63

・□□〔飯カ〕廿日一斛三斗八升　廿八日　六斗八升
［　］　［　］
・□□□□［　］〔廿二カ〕［　］□□日近□
〔陪従　人カ〕

(235)・(22)・6　081　JD29—31

64

・□受十三斛洟趾伍升
・合　廿八斛捌斗伍升

(175)・(24)・2　081　JE28—40

65

・□別六匁　□　［　］
□□□□□上米□□　［　］上番并四
・［　］　［　］　□□　□□
□□□□　□　□□
〔八カ〕

(288)・(16)・5　081　JE28—42

66

・□□　□九口　窪坏□
・□　□□□□六十

(147)・(12)・4　081　JE29—43

67

雀胘筆　斑竹筆

146・34・8　051　JF28—77

68

・門々并雑物鋪帳
・景雲四年八月

(80)・27・4　061（題籤軸）　JE28—54　*5

69

・若狭国遠敷郡佐分郷戸主三家人大人戸
三□公常石海藻六斤
・□荒嶋

169・31・7　031　JE28—54　*6

70

・　番長
・□　□

103・17・2　031　JF29—80　*4

71

蔵人官人

(78)・15・3　039　JF28—76　*4

72 ・○千文寶龜二年四月
・○貫仕丁蝮部虫人 101・17・3 011 JE29—55 *5

73 ○新錢八十文 60・26・3 011 JE27—51 *8

74 佐保芦 212・18・3 051 JE29—43 *6

75 坂合葉劒 190・20・3 051 JE29—55 *6

76 紫草六十八斤 中品 168・20・4 032 JE29—57 *6

77 豉納三斗八升 133・12・4 032 JE28—66

78 ・煮堅魚一籠盛十節
・□人 大三升 110・21・2 033 JE27—50 *6

79 鯛味腊 四切 137・16・3 051 JF27—87 *6

80 年魚鮨 92・26・5 032 JE29—43 *6

81 葦魚□ 51・12・4 032 JE29 *6

82 辛螺頭打 125・21・3 031 JE29—55 *6

83 鰯 65・16・3 032 JE28—54 *6

84 白米卅八斛 黒米□
(165)・27・2 081 JE27—50 *5

85 百卅 64・24・3 051 JE29—69 *8

86 ・右兵衛府奏右右兵衛府□
・高高道勲為為月奏道明□及及及及及
道□高有
(157)・11・4 019 JD29—31 *8
(表裏トモ他ニモ多數習書アリ。)

87 ・行 府家家家家 衛衛家家

・㐂 㐂 㐂㐂 㐂 □

200・98・7　011　JF28—89＋JF28—101　＊1

88 ・職職事事事職事事□
　　　事事

・第□身継守□佐美万呂
　　職
　　　　佐弥（重書）

(184)・20・4　019　JE28—40　＊4

89 ・支文女□文□ □□□　牒
　嚢　嚢 論林 嚢家家家
　其　牒　公 雙 家雙 牒

・□□□牒牒「　」牒□
謹 請 直 作 所□所 所為 □
□ □ □時

254・41・8　065　JF29—91

（表裏トモ他ニモ多数習書アリ。）

90 ・□□応給布十二端
〔布ヵ〕
「　」

・「　」
□道道道道道道道□　(172)・(21)・2　081　JE27—51

91 ・□□□□□　□
〔牒牒牒給張　符ヵ〕

・□□□□□　(149)・(9)・4　081　JF28—78

92 ・□□有物□□□□物□□
□ 入暮晩晩為 鳥 物□ □

・□日宍人部乙末呂
「　」（重書）

278・(40)・3　065　JE29—43

93 ・「　」
紫雲立浄員□
　　平

・十三[redacted]己乃□
〻〻「　」尋　(158)・(25)・11　081　JF28—77

94
・「成」□〔西カ〕
□宮□□□□
〔春カ〕□
・□□
□□廬廬□
道（模様）　(128)・(27)・2　081　JF28—78

95
文司□□
□无无□
行□　(105)・33・4　019　JE27—51

96
・神農皇
・皇農神　(68)・(14)・4　081　JE28—64　*8

97
a・□早令官得
〔下カ〕
□
・雲上行雁負露飛　(219)・(32)・1　061
b　□日□□　(219)・(31)・1　061
c　□（裏面）　(232)・(32)・1　061
d　□人世何（裏面）　(202)・(32)・1　061
e　□（裏面）　(183)・(30)・1　061
(234)・35・6.3　061　JF28—76＋JF28—77　*7

（以下101マデハ檜扇ニ墨書ノアルモノ。同一個体ヲ構成スル骨ニハアルファベットノ通シ記号ヲ付シ、骨ゴトノ法量ヲ併記スル。）

98
a・池池庭□池池
池　許曽部家庭庭庭
・池　池池　池田池池　292・39・1　061
b・池　池　□
許曽部許家池池
・池　池池
根　池池池池　292・39・1　061
c・池池池池池
・池　池池池池池
池池　池池池池池池池池庭庭　292・39・1　061
292・42・3.2　061　JE29—68　*7

99
・□麻麻呂麻呂麻呂
・池池池池池池池□(156)・(32)・1　061　JE29—56　*7
（98ト同一個体ノ檜扇ノ可能性アリ。）

100
a・紀朝臣藤原朝臣
・縵縵縵継継　(170)・31・1　061　*7

b・有有
・申　(90)・31・1　061
c　□（裏面）　(149)・31・1　061
d・鳥鳥
・□　成□　(109)・31・1　061　JE27—51
（100 a～dハ、要カラ外レタ状態デ重ナッテ出土シタガ、同一個体ノ檜扇ノ骨ト判断サレル。）

101
a・者麻呂□廣□□　□　(228)・(30)・1　061
b・□久此者
・□竟竟　(242)・30・1　061
(242)・35・10.2　061　JE28—40

102
・□□□□□□短短短念念
藤藤藤藤藤捉於
足足足足足足足足
・裳裳裳参参□
倭倭裳裳裳裳裳裳
□□捉枚於富富□□倭倭万呂
〔帳カ〕
275・90・3　011　JF28—90＋JF29—92　*8

103
・蕗薊薊蕗薊薊薊薊
・蕗薊　250・21・9　051　JE29—55　*5

104
・
□　□□□□□□□□□□　□
有有有有有有有有有有有有六有大有六有六大
添□□□長　長　長　長長長
□□□　□
・　(540)・(73)・9　081　JE29—56

105
・□為真為友為枝為道□
・歳歳□□□□首□　(137)・20・2　081　JF28—88
（裏面他ニモ重書アリ。）

106
・女玉
・枚
□

107
四第五疑ノノノノ　125・88・23　065　JE27—39

108
・供供位□　位位
供位位位　位付
□□
・　故故　人故□
故　故故故故故
169・38・6　011　JF29—81

109
・□□□□□□
興興興興興興興
・興□興興興□〔興カ〕
186・31・2　011　JF28—88

110
及及及及
(187)・20・3　019　JF28—88

111
・□斎斎斎
・□
(192)・(24)・1　081　JE27—51

112
・之〔都カ〕
都都□
・之之之□
(80)・24・4　019　JE28—53

113
属属□〔属カ〕
(98)・20・1　019　JE29—67

114
廣廣□□□
(93)・(15)・3　081　JF30—82

115
大宮
091　JF27

116
近衛
091　JF27

117
□師
091　JF27

118
等阿倍
091　JF27

119
金刺意
091　JF27

120
上毛
091　JF27

121
椋椅
091　JF27

122　秦栗栖　091　JE29—56

123　□大夫藤原　091　JF27

124　正六位下勳五等　091　JF27

125　宝亀　091　JF27

126　羅羅羅羅羅　091　JE28—42

南北溝SD二七〇〇

127　・式部召　紀人　土師時足
・宍人倭麻呂「□」中務「□」
174・34・2　011　JK42　*1

128　〔天平ヵ〕□□三年　(48)・(10)・1　081　JJ42

129　□□高宮廣足　(116)・(11)・2　081　JK42＋JJ42

130　□□朝臣□　091　JK42

第四〇四次調査(6BSD区)
井戸SE九五〇

131　西大寺三綱謹解申請申事
(231)・21・16　019　IC70　d　*9

132　・西大寺三□綱〔綱ヵ〕
・□　□　(120)・(10)・3　081　IC70　d　*9

133　〔東薗進ヵ〕□□□　(65)・(6)・4　081　IB70　z

134　東薗　(52)・17・2　019　IC70　c

135　・西市□〔令ヵ〕
・□　(47)・(24)・3　081　IC70　d　*9

136　□進上　(61)・(6)・4　081　IB70　d

137
・醤壱□ … □壱升　右津使供料　七月十六日
・　□ …　□
(86+254)・(11)・3　081　IB70　d

138
・白米伍合　□□□□□□□
・□
□□「□□」□□「□□」□□
〔寺主　信如　可信　憬　可信カ〕
(187)・(13)・4　081　IB70　d

139
・飯壱升五合□　□
・□　寺主□　可信　都維□
(199)・(13)・4　081　IC70　d

140
・〔飯カ〕
□□□□□　二月□七日〔別当慈カ〕□□□□
・□□□〔故状カ〕「聞円」
(138)・(5)・2　081　IC70　d　*9

141
〔飯　升カ〕
□□□□　□□□□□
(136)・(6)・4　081　IB70　d

142
・飯
・□〔寺カ〕
(24)・(9)・4　081　IC70　d

143
・飯□〔壱カ〕
・□□
(28)・(11)・3　081　IC70　d

144
〔捌升カ〕
□□
(66)・(7)・3　081　IC70　d

145
〔飯参升カ〕
□□□
(63)・(6)・4　081　IC70　d

146
・飯壱升　□
・□□
(110)・(7)・4　081　IC70　d

147
□□□司　□□
□　□□　□憬　□
(391)・39・7　081　IC70　d

148
・□□□倉人□ □「□□□□」〔西院カ〕
□浄女
・□ □
319・(16)・9 081 IB70 d

149
□ □ 丁拾参人給料
395・30・6 011 IB70 d *9

150
・□□□□ □二人 □ □ 各四人□□□□
〔人料カ〕
・ □堂堂堂堂□□
(167)・(9)・3 081 IC70 d *9

151
・和部□ □ 廣吉□ □ 近習□坏四〔御カ〕
・□□□□四具 □客□□□ □ □〔御カ〕〔坊カ〕
(242)・(12)・4 081 IC70＋IB70 d *9

152
・□□□□〔米カ〕
〔蔓洗カ〕
・□
(116)・(19)・3 059 IC70 d *9

153
・□□□〔食料カ〕
・ □
(51)・(7)・3 081 IB70 z

154
・□□□〔米カ〕
寺主「信□」
・□ □
(101)・(14)・2 081 IC70 d

155
・□ □
・寺主 可信 □□
(255)・(12)・3 019 IC70 d *9

156
・□ □
「□□□□□□」〔料之内カ〕 少□□〔寺カ〕
・□ □
(145)・(13)・4 081 IB70 d

157
・ □□□□〔一升カ〕
・上座
(64)・(9)・2 081 IC70 e

158
・上□〔座　可信カ〕□□
・□　□　(135)・(12)・6　081　IC70　d

159
「□栄」　可信「基憬」
(97)・(18)・5　081　IB70　d　*9

160
・□　□
・□□〔可信　憬　可カ〕「基□」□　(93)・(6)・3　081　IC70　d

161
□　可信「常深」　少寺主
(124)・(8)・2　081　IC70　d　*9

162
・□　□二人手長□
・　□　(90)・(6)・3　081　IC70　d

163
□□□□〔五日目代カ〕「安豊」
(63)・(14)・3　081　IC70　d　*9

164
・目代□　□
・□　□
(両面トモ重書多数アリ。)
(62)・(22)・2　081　IC70　d

165
・□慈□〔登カ〕
・□　□　(50)・(6)・3　081　IC70　d

166
三人　(39)・(7)・2　081　IB70　d

167
□　□白米　(50)・(6)・5　081　IC70　d

168
□□□□〔酒参升カ〕　(79)・(6)・3　081　IZ70　z　*9

169
□〔塩カ〕　(24)・(4)・4　081　IB70　c

170
・□伍升
・□□□　(61)・17・2　081　IC70　c

171
□一升
(55)・16・3　081　IC70　e

172
・□□升半　□□□□
・□　□　(165)・(5)・4　081　IC70　d

173
□四合
091　IB70　e

174
〔三月六日カ〕
□□□□□□□□　(125)・(10)・5　081　IC70　d

175
□□　〔潤カ〕□三月十日「□□」
(153)・(12)・3　081　IB70　e　*10

176
〔月カ〕
三□　(46)・(6)・5　081　IC70　d

177
・□□
・五月□□日□□□　(135)・(7)・4　081　IB70　d

178
・□　□八月四日
・□　□　(141)・(16)・5　081　IC70　d

179
・　□　□
・□月十□　(59)・(7)・5　081　IB70　d

180
・□　□
・　□四月〔十七カ〕□□　(112)・(7)・3　081　IB70　d

181
十二月十九□　(30)・(11)・1　081　IC70　d

182
・越前国足羽郡野田郷戸主□
・□□白米五斗延暦五年十一月　(109)・20・3　019　IC70　e　*10

183
□都伎部米五斗　正月廿三日　(95)・18・1　059　IC70　d　*10

184
人戸〔同カ〕□告刀自女二斗
□八遅〔乎カ〕三斗
(145)・19・5 059 IC70 d *10

185
・□□〔庄カ〕黒米五
・□〔延カ〕暦十一年十二月八□
(82)・15・3 081 IB70 d *10

186
・西大赤江南庄黒米五斗
・延暦十一年十二月十一日吉万呂
151・19・3 051 IC70 d *10

187
・西大赤江南庄黒米□□
■〔延カ〕■上
126・16・5 051 IC70 d *10

188
・□〔江南庄カ〕□□□
・延暦十□〔一カ〕
(51)・19・5 059 IB70 d

189
・□庄白米五斗
・□〔年カ〕六月五日吉万呂
(96)・15・4 059 IC70 d *10

190
・西大寺赤江北庄延暦十一年地子
・秦浄人黒米五斗
116・11・4 051 IB70 d *10

191
・□□□〔福カ〕得
・□〔延暦十一カ〕□□年十月廿四日
155・28・5 051 IC70 d *10

192
・□ □
・延暦十一年十二月十□日□
(101)・(6)・5 081 IC70 d *11

193
・□ □
・白米五
(58)・22・3 039 IC70 d *11

194
五斗一升六合
91・13・4 051 IB70 d *11

195 〔五ヵ〕□斗一升六合 73·14·3 051 IC70 d *11

196 五斗一升 92·12·4 051 IB70 c *11

197 ·〔五斗 升ヵ〕□□□□
·〔浄主食料ヵ〕□□□□□□ (115)·15·3 059 IC70 d

198 〔斗一ヵ〕五□□ (39)·19·2 039 IB70 d

199 五斗 (24)·19·2 019 IB70 d

200 ·〔五斗ヵ〕□□
·可信「常深」 117·15·2 051 IB70 d *11

201 ·五斗
·□ □ 132·12·3 051 IB70 d

202 五斗 (41)·15·1 011 IC70 d

203 ·〔五ヵ〕□斗
·十二〔上ヵ〕□廣女日 (91)·16·4 059 IB70 d

204 四斗九升二合 (79)·13·3 051 IB70 d *11

205 〔漬ヵ〕□□□斗 □ (75)·(6)·5 081 IC70 d

206 〔少ヵ〕□□ □大□ 101·12·3 033 IC70 d *11

207 ·□連□ □見
□ □ □
道□煩煩急遂□ □
遂道□遂遂
·□□ 見
見 見□ □
弁 合 見見□
合 豊
見見□見見見 見見□
□ (217)·(58)·4 081 IC70 d *11

208 □卅
(23)・(57)・3 061 IC70 d

209 〔有カ〕□有
(156)・12・8 081 IB70 d

210 学学〔学学学カ〕□□□
280・20・7 011 IC70 d *9

211 見見見見見見
(92)・(7)・6 019 IB70 d

212 ・道道過過過□〔過カ〕
・□□〔大角カ〕□□
(116)・(7)・2 081 IC70 d

213 請酢壱升二合
091 IC70 d *12

214 〔進カ〕□上□
091 IB70 e

215 □間食□
091 IC70 d *12

216 〔間カ〕□食□
091 IC70 d

217 □三日蔓□
091 IC70 c *12

218 備料 □
091 IB70 c *12

219 〔延カ〕□暦十一年十一月九日正七位上□□
091 IB70 d *12

220 〔七月六日カ〕□□□□
091 IB70 d

221 〔十カ〕□月十八日用米三升四合
091 IB70 e *12

222 廿一日用米五〔升廿カ〕□□□□□□
（221ト222ハ同一木簡ノ削屑。）
091 IB70 e *12

223 十一月廿
091 IC70 d

224 廿三日□□
091 IB70 d

225 二日□
091 IC70 d

226 □料十日
091 IC70 e *12

227 西大寺西大寺西大〔寺カ〕□
091 IB70 d *12

228 西大寺□ 091 IB70 d *12

229 西大寺□ 091 IB70 d *12

230 西大寺□ 091 IB70 d *12

231 □西大寺 091 IC70 d

232 〔西大寺カ〕□□□ 091 IB70 d

233 〔西カ〕□大寺 091 IC70 d *12

234 大〔寺カ〕□□ 091 IC70 d *12

235 □□□西□ 091 IB70 d *12

236 〔少僧都カ〕□□□ 091 IC70 d

237 目代慈登 091 IC70 d *12

238 〔目カ〕□代慈登 091 IC70 d *12

239 目代慈□ 091 IC70 d

240 〔目代カ〕□□ 091 IC70 d

241 〔綱カ〕□□ 091 IB70 d

242 □山階藤原 091 IB70 d *12

243 □吉女 091 IC70 b

244 〔麦カ〕□□女 091 IC70 d

245 〔女カ〕□□□□□□ 091 IC70 d

246 □刀自 091 IC70 d *12

247 閏 091 IB70 e *12

248 □直六石一斗 091 IC70 d *12

249 二斗九升 091 IC70 c *13

250 二斗□升 091 IC70 d

251 □□一斗□□〔五升カ〕 091 IC70 d *13

252 〔ム 下 時カ〕□天□水尋□ 091 IC70 d *13

253 □□□升□□□□□□年□□□〔斗 升カ〕 091 IC70 攪乱 *13

254 六升五 091 IC70 c

255 □□五升 091 IB70 d

256 □五升□□ 091 IC70 b

257 □□五升二□ 091 IC70 e *13

258 肆升七□ 091 IC70 e *13

259 升二合 091 IC70 c

260 二合 091 IC70 c

261 □石二斗□ 091 IC70 d *13

262 □五升□ 091 IC70 d *13

263 一升 091 IB70 d

264 又下 091 IC70 d

265 □升□ 091 IC70 d

266 □蘿□□〔茄四カ〕 091 IC70 d *13

267 □□〔四日カ〕□三〔月カ〕□ 091 IC70 d

268 □三〔月カ〕 091 IC70 d

269 〔若　米カ〕□干□　091 IC70 d

270 心太五斗　091 IC70 d *13

271 □漬菜　091 IC70 e *13

272 一条調布 ⌜□　091 IC70 d *13

273 六条□　091 IC70 d

274 □右被十一□〔具カ〕　091 IC70 d *13

275 廿三枚 ⌜□　091 IC70 d *13

276 □三□〔枚カ〕　091 IC70 d *13

277 枚□〔用カ〕　091 IC70 d

278 □司　091 IB70 d

279 □□二百九十　091 IC70 c *13

280 壱□〔伯カ〕　091 IC70 d

281 将□七十□　091 IC70 e *13

282 廿七少□　091 IC70 d

283 □十二　091 IB70 e

284 □五　091 IB70 c

285 □四　091 IC70 b

286 □論記□　091 IB70 d

287 乙□□□□□□□〔己巳　亥カ〕　091 IB70 d *13

288 □　□大□薗大□□〔狛カ〕　091 IC70 d *13

289 〔足カ〕□足之大□　091 IC70 d *13

290 東東東□　091 IC70 d

291 □□□□里□ 091 IB70 d

292 量□□ 091 IB70 d

293 □太 091 IB70 d

294 □蔓 091 IC70 b

295 〔御カ〕□□ 091 IB70 d

296 〔御カ〕□□ 091 IB70 d

297 石可□ 091 IC70 c

298 □女 091 IC70 c

299 恵□ 091 IC70 d

300 〔酒カ〕□ 091 IC70 d

301 壱□ 091 IC70 d

302 〔謹カ〕□□ 091 IC70 d

303 □□□見□ 091 IC70 d

304 □大□ 091 IC70 d

305 □合 091 IC70 d

306 □芋□□ 091 IC70 d

307 □若□ 091 IC70 d

308 薬□ 091 IC70 d

309 □□束 091 IC70 d

310 □太□ 091 IC70 d

311 科 091 IC70 d

312 道□ 091 IC70 d

313 〔道カ〕□ 091 IC70 d

314 〔長カ〕□□□ 091 IC70 d

315 寺□ 091 IC70 d

316 □聿 091 IC70 d

317 女 091 IC70 d

318 □ 戌□ 091 IC70 d

319 □料□ 091 IC70 d *13

320 □ 飯 091 IC70 d

321 □ 粥□□ 091 IC70 d

『平城宮発掘調査出土木簡概報』(三十八)訂正

36 東薗進上大根三升 知佐二升
(232)・(17)・3 081 IC70 d *14

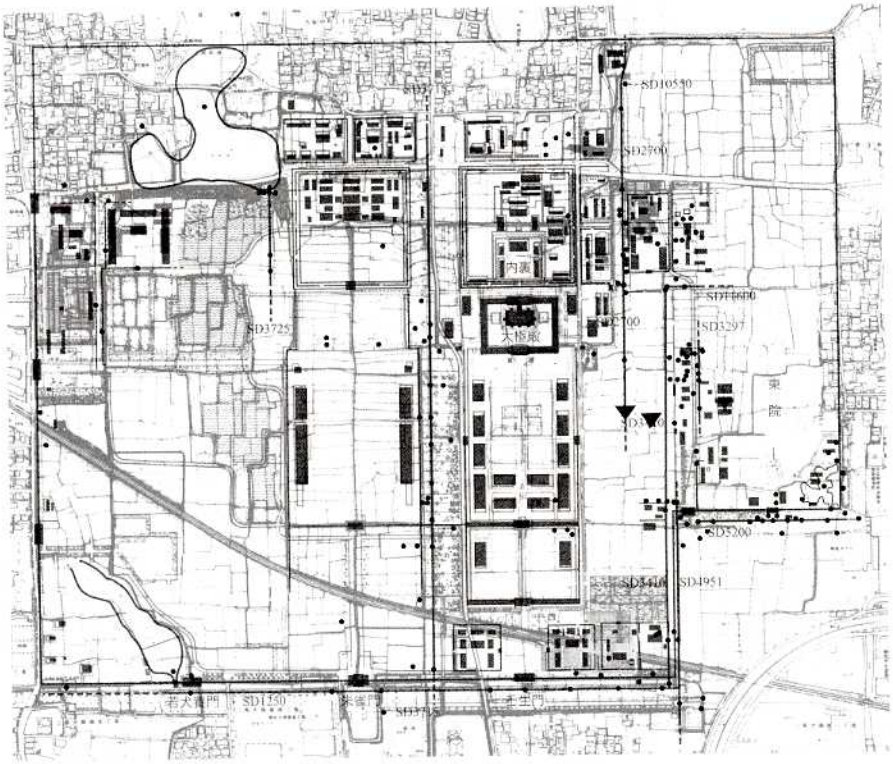
38 進上 大角豆拾把 七月十日僧信梵判収目代安豊
270・22・4 011 IC70＋IC70 d *14

51＋66 少戸主波太部直万呂戸□田料大豆五斗
(218)・22・4 039 IB70＋IC70 d *14

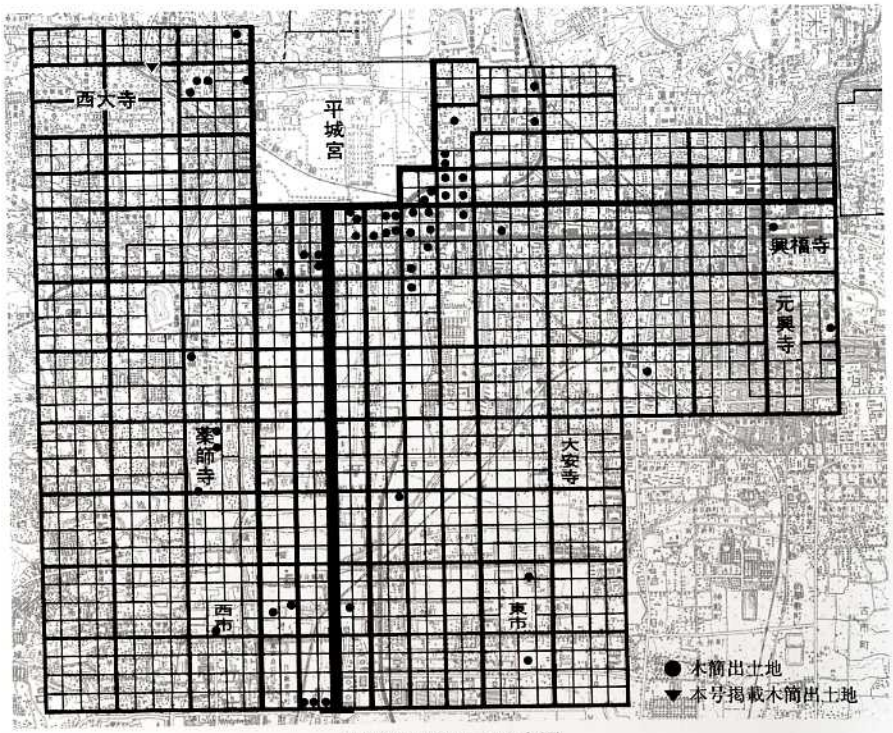
55 □五政所千縄稲□主 中院浄主 西院□守 西倉道長
(338)・(33)・9 081 IB70＋IC70 d

71 ・西成乎智廣少戸白二斗五升
・佐々貴山公時守戸白米二斗五升
202・24・3 019 IC70 d *14

54 ・塩壱升 □□
・ □ □
白米太大合西大寺寺□
(159)・(17)・1 081 IC70 c *14



平城宮木簡出土地点図　● 木簡出土地　▼ 本号掲載木簡出土地



平城京木簡出土地点図

二〇〇九年十一月二五日印刷
二〇〇九年十一月三〇日発行

平城宮発掘調査出土木簡概報（三十九）

編集・発行　独立行政法人国立文化財機構
奈良文化財研究所
〒六三〇―八五七七
奈良市二条町二―九―一
TEL　〇七四二―三〇―六八三七
FAX　〇七四二―三〇―六八三〇